

国指定重要文化財(平12.6.27)

おき なわ けん しゅ り じょう  
**沖縄県首里城**  
 ぎょう うち あと しゅつ ど どう じ き  
**京の内跡出土陶磁器**  
 つけたり いち きん ぞく せい ひん  
**附 一、金属製品**  
 いち だま  
**一、ガラス玉**  
 518点 金属製品一括・ガラス玉一括



破片で出土した陶磁器を復元するとこうなるのね。



中国だけでなく、タイやベトナムなど東アジアや東南アジアとの交流があったことがわかる貴重な品々なんだよ。



## 琉球国の栄華を伝える貴重な陶磁器



京の内跡出土陶磁器

「沖縄県首里城京の内跡出土陶磁器」は、那覇市首里当蔵町に所在する、首里城京の内跡から出土した資料です。

京の内は霊力のある聖域で、琉球国の最高神女である聞得大君が、王や王国の繁栄を祈願した場所とされています。

京の内跡の発掘調査は、1994～1997(平成6～9)年度に実施され、建物跡等の遺構とともに数多くの陶磁器等の遺物が火を受けた状態で出土しています。出土した陶磁器は、中国の元や明の時代に作られた青磁や青花、タイ

産褐釉陶器、ベトナム産陶器、日本の備前焼等でした。これらは14世紀中頃～15世紀中頃に作られたものが中心となります。なかでも紅釉水注は、京の内跡から出土した資料以外では、北京の故宮博物院に収蔵される2点と、景德鎮窯跡出土の破片が1点確認されているのみです。また、元青花の大合子は現時点で世界的に類例が無く、極めて貴重な資料です。そのほか京の内跡からは、香炉や武具などの金属製品、ガラス玉等も出土しており、これらは豪華な陶磁器とともに、祭りや宴に使用されていたと



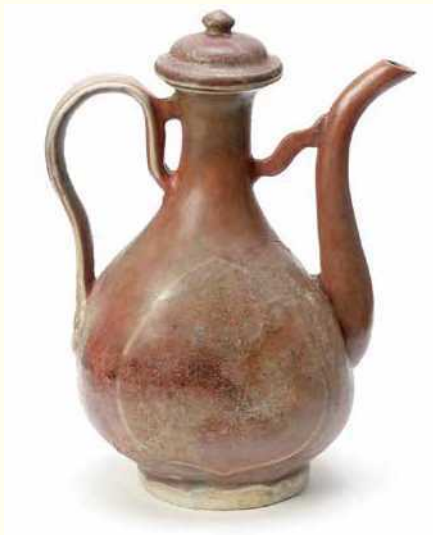
京の内跡(右手に奉神門, 正面奥に広福門)



出土遺物(角釘やかすがいなど)



出土遺物(かんざしやガラス玉など)



紅釉水注



出土遺物(かぶとの前立てやよろいなど)

考えられています。

調査の結果と古い文献等の各種記録から、  
 検出した建物跡は1459(天順3)年に焼失した  
 倉庫跡と推測されています。

京の内跡出土陶磁器は、首里城正殿前に掛  
 けられていた万国津梁の鐘の銘文にあるよう  
 に、中継貿易で栄えた琉球国の繁栄ぶりを示す  
 貴重な資料です。

(写真提供: 沖縄県立埋蔵文化財センター)

国指定重要文化財 (平13.6.22)

おき なわ けん せい ふあ う たき しゅつ ど ひん  
**沖縄県斎場御嶽出土品**  
 いち まが たま いち せい じ  
**一、勾玉 一、青磁**  
 いち えん しょう せん さん せい  
**一、厭勝銭 (金製)**  
 いち せん か  
**一、銭貨**

勾玉9箇 青磁10箇 厭勝銭(金製) 9枚 銭貨534枚



多くの観光客が訪れる斎場御嶽から、このような品々が発掘されたんだね。



首里土府にとって、とても大事な聖域だったことが、この出土品からもわかるよ。お、ろかな折りの場でもみつけたんだね。



## 琉球国最高の聖地から出土した貴重な品々



① 斎場御嶽出土品

「沖縄県斎場御嶽出土品」は、南城市知念字久手堅サヤ八原に所在する、斎場御嶽の三庫理から出土した資料です。

斎場御嶽は、首里王府直轄の拝所で、沖縄第一の霊場として知られています。国王が毎年、巡幸拝礼を行う場所であるとともに、王府の最高神女の聞得大君が、「御新下り」と呼ばれる

即位の儀式を行った場所でもあります。現在も信仰のために訪れる人が後を絶ちません。

発掘調査は、史跡の整備を目的として1994～1998(平成6～10)年度までの5年間にわたって実施されました。4力所ある拝所の中心となる三庫理を調査した結果、文化層が2層見つかると、儀式のために埋められた、様々な遺物が



②イビヌメー上層出土遺物(青磁・勾玉・古銭)



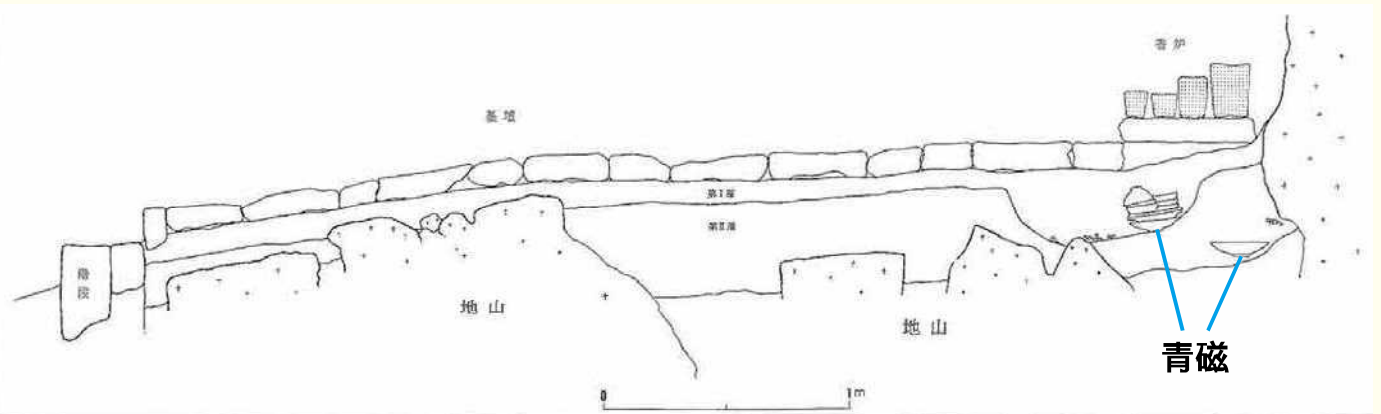
③イビヌメー上層遺物(青磁・勾玉・古銭)



三庫理(近景)



④出土遺物(勾玉・厭勝銭)



⑤イビヌメーの層序と遺物出土状況

出土しています。イビヌメーの上層からは、金製や石製、ガラス製の勾玉、中国の龍泉窯で生産された青磁のほか、円形に敷き詰められた状態で古銭が出土しました。また下層からは、中国漳州窯産の青磁盤と古銭が出土し、イビヌメーに近接するチョウノハナからは、金製の厭勝銭が出土しています。

これらの出土状況は、この場所で2つの時期に何らかの儀式が行われたことを示しています。また、儀式の際に勾玉や青磁、銭貨が使われていることから、琉球国時代の信仰の形について考える上で貴重な資料です。

(写真提供:①～⑥南城市教育委員会)

# こ が ち ぼる かい づか 古我地原貝塚 しゅつ ど ひん 出土品

234点(土器30点 石器101点 貝製品58点 骨製品39点 石製品6点)



縄文時代の生活用具や食べ物がまよって出したのね。当時の暮らしが想像できるわ。



遺跡からは4基の竪穴住居跡も確認されており、当時の暮らしを復元する上で重要な成果が得られたんだ。同じ時期の下田原貝塚の出土品と比べると面白いぞ。



## 縄文時代の暮らしと交流を物語る出土品



古我地原貝塚出土品



古我地原貝塚(遠景)



出土遺物(貝・骨製品)

「古我地原貝塚出土品」は、うるま市石川字伊波小字古我地原に所在する縄文時代中・後期(約4000年前)の遺跡から出土した考古資料です。

この遺跡は台地上に住居をつくり、崖下にゴミ捨て場となる貝塚を形成するという、縄文時代後期の前半に多いタイプの立地です。出土した土器の割合をみると、在地土器が少なく「奄美系土器」が大半を占めていることが特徴的です。

特に、奄美系土器のひとつである「面縄前庭式土器」は、全形が把握できるほど残りが良いことから、この土器の特徴を示す資料となっています。

また、「面縄前庭式土器」と在地土器である「仲泊式土器」の中間タイプの土器が出土しており、仲泊式土器の起源を解明する上で重要です。石器には石斧や敲打器、磨石等があり、貝製品では小玉が多量に出土しています。骨製品ではヤス状刺突具のほか、クジラやジュゴンの骨で作られた腕輪が注目されます。石製品では勾玉状製品や蝶型骨器の原形と考えられる彫刻石製品が出土しています。

これらの出土遺物は、縄文時代後期の土器の編年研究に大きく貢献するとともに、当時の生活様式や奄美諸島との交流を考える上で貴重な資料です。

しも た ばる かい づか

# 下田原貝塚

しゅつ ど ひん

# 出土品

209点(土器1点(附土器片85点) 石器45点 骨製品26点 貝製品137点)



イノシシの骨が出土しているね。どこから捕らえてきたのかな。

下田原式土器は、八重山諸島と多良間島の15遺跡で出土しているんだ。占我地原貝塚の土器や石器との違いが分かるかな？



## 南方との交流を示す謎を秘めた出土品



①下田原貝塚出土品



■下田原貝塚(遠景)



■②出土遺物(石器)



■③出土遺物(貝・骨製品)

「<sup>しも た ばる かい づか</sup>下田原貝塚出土品」は、竹富町字波照間小字下田原に所在する、先島先史時代の<sup>しげ</sup>下田原期(約4000年前)の<sup>せき</sup>集落遺跡から出土した考古資料です。

1956(昭和31)年10月19日に遺跡の一部が琉球政府の埋蔵文化財に指定され、1972(昭和47)年の本土復帰に伴い、県指定史跡になっています。

この出土品は沖縄県教育委員会が、1983～1985(昭和58～60)年に遺跡の北側で発掘調査した時に発見した資料です。器の左右に牛角状把手が付く沖縄島では見られないタ

イプの鍋形土器が出土し、「<sup>しも た ばる かい づか</sup>下田原式土器」と名付けられました。石器については石斧や敲石、磨石のほか、他の遺跡では出土例が少ない小形のドリルが出土しています。その中でも骨製品と貝製品は種類が豊富で、骨針や骨錘、イノシシ牙製品、サメ歯製品、螺蓋製敲打器、スジガイ突起部加工品、貝垂飾品等が出土しています。

これらの出土品は、先島諸島の先史時代の暮らしを知る手がかりとなるもので、未だ解明されていない先島先史文化の起源を考える上で重要です。



人類の活動が行われた痕跡が残る場所を遺跡といいます。遺跡は先人が営んできた生活の証であり、国民共有の歴史的財産です。これらの遺跡は、地中や水中に埋もれていることが多く、このことが埋蔵文化財とも呼ばれる所以となっています。

遺跡には、人々が使用していた生活道具や住居跡などが残されています。文字や記録のない時代ではこれらの出土品や遺構が唯一の資料ですし、文字や記録がある時代でも、人々がどのように生活していたかを物語る貴重な資料となります。

出土品の中でも、本書に掲載されている「沖縄県首里城京の内跡出土陶磁器」「沖縄県斎場御嶽出土品」や「古我地原貝塚出土品」「下田原貝塚出土品」は、他に例をみない資料であり、その遺跡でしか出土しないものがあったりします。

出土品は人々の生活や生産・生業等を明らかにすることのできる資料であり、学術的価値が高いものなのです。



■古我地原貝塚出土品



■下田原貝塚出土品

(写真提供: 沖縄県立埋蔵文化財センター)